

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：82620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370123

研究課題名(和文)江戸～昭和期の常磐津節演奏家に関する基盤研究

研究課題名(英文)Basic Research into Tokiwazu-bushi Performer of the Edo-Showa era.

研究代表者

前原 恵美 (MAEHARA, MEGUMI)

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・無形文化遺産部・主任研究員

研究者番号：70398725

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：(1)江戸～昭和期の常磐津節演奏家情報の整備と公開のために、町田嘉章のメモについての論文1本、「吉原細見」の名寄せに見られる男芸者情報についての報告書1冊を執筆し、後者はウェブサイトで公開した。(2)江戸祭礼と常磐津節演奏家の関連に焦点を当てた論文を2本執筆した。(3)常磐津英寿氏へのインタビューに関連して、林中が使用した浄瑠璃本に基づく論文1本を執筆した。(4)そのほか、常磐津節の復曲に関する学会発表を行い、本研究における史料アプローチに関連するシンポジウムに参加した。

研究成果の概要(英文)：(1)For the purpose of organizing and publicizing information regarding Tokiwazu-bushi performers of Edo to Showa era, I published an article with the reprint of a memo written by Machida Kasho, and published a report on Otoko-geisha's information seen in a roster of "Yoshiwara-saiken". This report is also available on website. (2)I published two articles focusing on the relation between Edo festivals and Tokiwazu-bushi performers. (3) In connection with the interview with Tokiwazu Eiju, I published an article based on the joruri-bon that Rinchu used on stage. (4) In addition, I gave a presentation on revival of the Tokiwazu-bushi piece, and I participated in a symposium about research methods using historical materials.

研究分野：美学・芸術諸学

キーワード：三味線音楽 常磐津節 江戸祭礼 吉原細見 豊後系浄瑠璃 神田祭礼 男芸者

1. 研究開始当初の背景

本研究は、同研究代表者による先行研究「江戸～大正期の常磐津節演奏家研究」(2010-2012年度基盤研究(C)、課題番号:22520165)を引き継ぐ研究である。上記先行研究では、これまで歌舞伎上演資料(番附類)や正本を中心に収集されてきた常磐津節演奏者の情報に、より多角的な視点を加えることを試みた。具体的には、(1)町田嘉章によるメモの翻刻と検証、(2)常磐津英寿氏へのインタビューおよびその延長線上で機会を得た常磐津林中使用の浄瑠璃本による試論の展開、(3)「吉原細見」名寄せに見られる男芸者情報に注目した常磐津節演奏家研究である。

前掲3点のうち、(1)については、以下の論文3本を分割投稿した。「常磐津節演奏家研究序論 町田嘉章の『常磐津太夫芸歴列伝』『常磐津家元伝記』『三弦手列伝』を起点に」(『有明教育芸術短期大学紀要』1号、2010年、pp.179-188)、「常磐津節演奏家研究報告 『常磐津太夫芸歴列伝』の翻刻と検証」(『有明教育芸術短期大学紀要』3号、2012年、pp.105-128)、「常磐津節演奏家研究報告 町田史料の翻刻と検証」(『有明教育芸術短期大学紀要』4号、2013年、pp.93-114)。しかし分量の問題からもう1本の執筆分を残している。(2)については、その成果の一部として『常磐津林中の音楽活動の軌跡 盛岡市先人記念館所蔵林中本を手掛かりに』(武久出版、2013年)を執筆した。(3)については、学会発表「芝居の演奏家と吉原の男芸者の兼業 三代目常磐津造酒太夫を中心に」(第61回東洋音楽学会大会、(社)東洋音楽学会(当時)東京学芸大学、2010年)を行ったほか、(1)の論文執筆に際して傍証として「吉原細見」名寄せにおける男芸者情報を反映させた。

(1)については、残る一本の論文執筆により一応の完結となるが、(2)については、これまでのインタビュー内容の書き起こしと細部の情報確認を行って、インタビュー関係者で記録を共有する必要性があるほか、条件が整えば追加的なインタビューも行いたいところである。また、(3)の情報については、より幅広い研究者に資する形での公表を目指しつつ、情報の捕追、整理作業も課題である。

さらに新たなアプローチとして、江戸祭礼資料を用いた常磐津演奏家研究の可能性を追加できると考えている。その示唆として以下の先行研究がある。竹内道敬氏の「資料影印・翻刻 江戸祭礼芸能資料」および解説「幕末江戸祭礼の芸能資料 天保改革以降」(『東洋音楽研究』53号、東洋音楽学会、1988年、pp.73-146)では、河東節「御祭礼花くらべ」と長唄「八重霞賤機帯」を取り上げて、江戸祭礼から生まれた三味線音楽作品がどのような状況が作られたのかを、各種祭礼資料の文字や絵による情報を祭礼の順路図にも照らし、その実態に迫った。同じく竹内氏の『近世邦楽考』所収「江戸祭礼研究 天保

十年神田祭」(南窓社、1988年、pp.326-343)は、一枚番附をもとに附祭の実態を推定しようと試みている。また安田文吉氏は「徳川美術館蔵『山王附祭繪図』と弘化三年山王御祭礼附祭番附一常磐津節『雛遊内囊学』を中心に」(『楽劇学』第5号、楽劇学会、1998年、pp.10-22)において、祭礼番附と繪図を他資料と併せて検証し、歌舞伎および歌舞伎音楽研究の基礎資料とされる芝居番附や役者評判記には掲載されていない祭礼情報の重要性を具体的に示したほか、附祭の《雛遊内囊学》について、《三ツ面子守(菊蝶東籬妓(はなにちょうまがきのうかれめ))》、《角兵衛(後の月酒宴島臺(のちのつきしゅえんのしまだい))》、《どんつく((神楽謡雲井曲毬(かぐらうたくもいのきょくまり))》の趣向が取り込まれていることを指摘した。さらに入江宣子氏の「附祭の音楽」(『神田明神選書1 天下祭読本 幕末の神田明神祭礼を読み解く』、都市と祭礼研究会、2007年、pp.202-206)は、嘉永4(1851)年の神田祭附祭を取り上げ、歌舞伎の演目が附祭に取り入れられた例として長唄《紅葉狩》(色見草月盃(いろみぐさつきのさかずき))、《越後獅子》、常磐津節の《どんつく(神楽謡雲井曲毬(かぐらうたくもいのきょくまり))》、《勢獅子(勢獅子劇場花籠(きおいじしかぶきのはなかご))》を挙げ、逆に祭礼で演奏されたものから歌舞伎音楽に展開した例として長唄《賤機帯》、河東節《御祭礼花くらべ》(祭礼では《川狩の学び》)等を挙げている。なお、入江氏のほかの論考に「文政八年神田御雇祭の音曲」もある。このほか、資料が期間、種類、数の点で膨大な江戸祭礼資料は散在しており、影印本や翻刻は非常にありがたい。『神田明神選書2 江戸天下祭絵巻の世界 うたい おどり ばける』(岩田書院、2011年)や『日本庶民生活資料集成』22巻(三一書房、1979年)に図版や影印、翻刻が収められていることは貴重である。これらの先行研究を受けて、祭礼資料を網羅的に検証することを目指し、江戸祭礼資料と常磐津節演奏家の関係性を経年的に概観できれば、新たなアプローチとして効果的であろうと思われる。

2. 研究の目的

1. の背景を受けて、常磐津節演奏家研究の基盤を整備すべく、前掲同研究代表者による研究を引き継ぐとともに、新たなアプローチとして、江戸祭礼資料による調査研究を進めることを目的とした。具体的には以下の三点を目指す。

(1) 町田嘉章によるメモの翻刻と検証

分割投稿を行ってきた、町田嘉章による常磐津節演奏家に関するメモの翻刻と検証の最終稿を執筆することで、町田嘉章の収集した情報を整理、公表する。

(2)「吉原細見」名寄せに見られる男芸者の情報収集・整理・公開

「吉原細見」名寄せの男芸者情報は、これまでにある程度蓄積してきたが、さらにできる限り情報を追加するとともに、それらのデータを他の研究者にも使いやすいように整理し、常磐津節演奏家研究はもちろん、常磐津節以外の三味線音楽や、さらには音楽を越えて舞踊や演芸の研究にも資する形で、より広く公表する。

(3)江戸祭礼資料の収集と整理、常磐津節演奏家研究への活用

天下祭りである神田祭礼と山王祭については、様々な種類の資料が残る。これらを前掲竹内道敬氏の分類に従い、一枚番附、絵本番附、横長本番附、名前帳、詞章本、その他に分類して調査、整理を行い、その活用として試論を提示する。

(4) そのほかの当該研究テーマによる研究

常磐津英寿氏へのインタビュー内容の書き起こしおよび確認作業とインタビュー関係者での記録共有を行う。さらに英寿氏インタビューをきっかけとした常磐津林中使用の浄瑠璃本を用いた研究を展開させる。

3. 研究の方法

(1)町田嘉章によるメモの翻刻と検証

研究代表者による町田メモの翻刻・校正および、研究協力者による入力作業を行い、「吉原細見」名寄せとの照合を反映させて5.〔雑誌論文〕を執筆した。

(2)「吉原細見」名寄せに見られる男芸者の情報収集・整理・公開

すでに調査した「吉原細見」名寄せのデータを整理、フォーマットの統一を図り、必要に応じて補足調査を行った(岩瀬文庫、東京都江戸東京博物館、東京都立中央図書館加賀文庫、同図書館東京誌料、同図書館特別文庫、関西大学図書館、国立国会図書館、同図書館古典籍、天理大学附属天理図書館、明治大学図書館)。本研究成果をより幅広いジャンルの研究者に利用しやすいよう、報告書に収める一覧の項目を整理し(板元名、所蔵、名寄せの有無、男芸者(専門分野)、「惣芸者世話役」等の取りまとめ役、および備考)この項目に応じて整理したデータを再構成した。

利便性を鑑みて、報告書に芸名索引を付すこととし、芸名と世数、改名に関して相関関係が分かるよう工夫して体裁を整えた。

トピックスとして小稿2本を収め、「吉原細見」名寄せに見られる男芸者情報を活用した試論を提示した。

情報の活用のため、報告書をホームペー

ジで公開し、オープンアクセスを可能とした(5.〔その他〕ホームページ等)。

(3)江戸祭礼資料の収集と整理、常磐津節演奏家研究への活用

前掲先行研究を元に、嘉永4(1851)年の神田祭を取り上げ、祭礼と歌舞伎に共通した常磐津節作品を詞章から分析し、5.〔雑誌論文〕を執筆した。

さらに網羅的な調査研究のため、神田祭および山王祭の祭礼資料を収集(神田神社、東京都立中央図書館東京誌料、同図書館特別文庫、同図書館加賀文庫、当方区大学図書館狩野文庫、東京国立博物館、国立音楽大学附属図書館竹内道敬寄託文庫、国立国会図書館デジタルコレクション)分類、整理した。

で整理した資料を用いて、三味線音楽からみた附祭資料の特徴、附祭における豊後三流の演目数の変遷、附祭と歌舞伎の常磐津節タテ演奏者の動向、詞章からみた附祭と歌舞伎について考察を行い、三味線音楽研究から見た江戸祭礼資料の意義を明らかにして、5.〔雑誌論文〕を執筆した。

(4) そのほかの当該研究テーマによる研究
常磐津林中が舞台上で使用した浄瑠璃本から、現行曲である《乗合船恵方万歳》を取り上げ、林中の浄瑠璃本と現行詞章の比較や、浄瑠璃本への書き込みから具体的な分析を行い、5.〔雑誌論文〕を執筆した。

現在では伝承が絶えていた常磐津節《槍持奴》・《月の辻君》について、日本舞踊諫煤茂都流に残されている三味線譜を提供していただく機会を得、長唄研究の配川美加氏、長唄三味線方の杵屋佐之義氏、常磐津節三味線方の五世常磐津文字兵衛氏の協力を得て、復曲を試み、その過程で浮き彫りになった問題点や明らかになった点について、復曲試演音源および実演を交えて発表した(5.〔学会発表〕)。

研究代表者の、「吉原細見」および常磐津林中使用の浄瑠璃本の調査研究に関連して、パネルディスカッション「日本音楽研究における在外資料をめぐる諸問題と可能性」のパネリストとして参加し、その手法等について意見交換を行った(5.〔学会発表〕)。

4. 研究成果

(1)町田嘉章によるメモの翻刻と検証

4回にわたる当該テーマの論文執筆により、町田嘉章が常磐津節演奏家研究に資する多くの情報をメモとして残していた功績が明らかとなった。

(2)「吉原細見」名寄せに見られる男芸者の

情報収集・整理・公開

報告書「『吉原細見』に見られる男芸者一覧(稿)」の構成は以下の通り。

1. 本稿のねらい
2. 凡例
 - 1) 一般表記
 - 2) 芸名等
 - 3) 所蔵等
 - 4) 例
3. 男芸者一覧(稿)
4. 芸名索引
5. 「吉原細見」に見られる男芸者小稿
 - 1) 「吉原細見」からみた初期富本節
 - 2) 男芸者情報もたらす焦点化と俯瞰の視点

上記のうち5. 1) は研究補助者の曾村みずき氏による執筆だが、それ以外には全て研究代表者が執筆および編集で関わった。本報告書の特徴として、常磐津節研究はもちろん、ほかの音楽ないし芸能分野の研究にも役立つよう、男芸者名を幅広く拾い出したことが挙げられる。当初は「吉原細見」の名寄せに注目し、名寄せのない「吉原細見」は対象外としていたが、その後の調査で、名寄せがなくとも、本文に男芸者の名が記されていることを重視し、名寄せのない「吉原細見」も可能な限り調査して一覧に含めた。一方で、対象を広げたために、「吉原細見」の多くを調査したとはいえるものの、全てを完全に網羅するには至っていないと認識しており、この報告書をホームページ上で公開し、多くの研究者に資するとともに、今後とも情報の補足、修正を行うべく情報を募っている(〔その他〕ホームページ等)。現段階で1名の方より追加情報が寄せられており、現在情報の裏付け確認を行っている。

(3)江戸祭礼資料の収集と整理、常磐津節演奏家研究への活用

5.〔雑誌論文〕では、嘉永4(1851)年の神田祭に焦点を当て、祭礼と三味線音楽の関係性を常磐津節研究の立場から明らかにしようと試みた。特に、歌舞伎で上演された作品が同年のうちに祭礼で演奏されていた状況から、祭礼と歌舞伎の近親性がうかがえ、そこには同じ三味線音楽演奏家が歌舞伎と祭礼を行き来していたことが大きく影響している。一方で、祭礼と歌舞伎に用いられる同作品の詞章を比べることで、三味線音楽ではしばしば行われる「抜き差し」(作品の途中を省く)が分かり、その演奏の重きがどこに置かれていたかを探ることができることを具体的に示した。本論文の構成は以下の通りである。

- ・はじめに
 1. 祭礼と三味線音楽
 2. 研究対象と方法
- ・神田祭に関連する先行研究
- ・神田祭と祭礼資料
 1. 神田祭の歴史と特徴
 2. 神田祭の祭礼資料
- ・嘉永4(1851)年の神田祭祭礼資料に

よる常磐津節演奏家研究

1. 嘉永4(1851)年の神田祭の全体像
2. 嘉永4(1851)年の神田祭附祭に参加した演奏家について
3. 地走踊《皇月花曾我写絵》と常磐津節《勢獅子》
- ・まとめと今後の課題

また、5.〔雑誌論文〕では、より網羅的に祭礼資料を調査し、祭礼と歌舞伎で活躍三味線音楽演奏者の変遷を辿った。附祭での豊後三流の演目数を経年的に追ったほか、特に常磐津節については歌舞伎でのタテ演奏者と照合して考察し、附祭と歌舞伎に共通する作品について詞章の比較分析を行った。本論文の構成は以下の通りである。

はじめに 天保八(一八三七)年神田祭附祭《三番叟常磐色揚(さんばそうときわのいろあげ)》の示唆するもの

- 一 構成および範囲
- 二 先行研究
- 三 三味線音楽からみた附祭資料の特徴
- 四 附祭における豊後三流の演目数の変遷
- 五 附祭と歌舞伎の常磐津節タテ演奏者の動向
- 六 詞章からみた附祭と歌舞伎
- まとめ 三味線音楽研究から見た江戸祭礼資料の意義

本研究により、三味線音楽演奏者の動向をより繊細に知る術として、江戸祭礼資料が有効であることを、具体的に示すことができた。また、附祭の詞章が作品成立の過程を知る手掛かりとなりうるということをも、附祭で演奏された《山姥怪童丸の学び》と《新山姥》の詞章を比較検証することで明らかにすることができた。

(4) そのほかの当該研究テーマによる研究

5.〔雑誌論文〕により、現行曲でもある《乗合船恵方万歳》が、常磐津林中の演奏では現行にはない上演状況のバリエーションや、抜き差しが明らかに鳴ったほか、林中の濁音に対する意識や時勢に合わせた文言の選択、拍を強調したり曖昧にしたりする節、息遣いの工夫が確認できた。

5.〔学会発表〕では、伝承の途絶えた作品を、日本舞踊家によって書き留められた三味線譜から復曲することを試み、その過程や問題点を具体的に実演を交えて明らかにするとともに、作品成立の背景にも考察を加えた。

5.〔学会発表〕では、本研究における資料調査・研究の手法についてパネルディスカッションを通じて公表し、他の日本音楽研究者との間で「日本音楽研究における在外資料をめぐる諸問題と可能性」についての情報および意見交換を行うことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

前原恵美、江戸祭礼と歌舞伎音楽演奏者の動向 常磐津節を中心に、神田明神研究論集1、神田神社、2017、pp.73-100

前原恵美、報告書「吉原細見」に見られる男芸者一覧(稿)、独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所、2017、全109頁

前原恵美、江戸祭礼資料による常磐津節研究 嘉永4(1851)年の神田祭を中心に、有明教育芸術短期大学紀要、査読有、第7号、2016、pp.71-81)

前原恵美、常磐津林中の語った《乗合船恵方万歳》 盛岡市先人記念館所有林中本による、有明教育芸術短期大学紀要、査読有、第6号、2015、pp.125-141

前原恵美、常磐津節演奏家研究報告 町田史料の翻刻と検証、有明教育芸術短期大学紀要、査読有、第5号、2014、pp.39-66

〔学会発表〕(計2件)

前原恵美ほか3名、日本音楽研究における在外資料をめぐる諸問題と可能性(パネルディスカッション) 日本音楽学会第65回全国大会、九州大学大橋キャンパス(福岡県・福岡市)、2015年11月8日

前原恵美ほか3名、常磐津節《槍持奴》・《月の辻君》復曲の試み—榎茂登流に残された三味線譜による—、東洋音楽学会東日本支部第81回定例研究会、東京藝術大学(東京都・台東区)、2014年12月6日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://maehara-m.jp/>にて、〔雑誌論文〕報告書「『吉原細見』に見られる男芸者一覧(稿)」を公開(オープンアクセス)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前原 恵美 (MAEHARA, Megumi)
独立行政法人国立文化財機構・東京文化財研究所・無形文化遺産部・主任研究員
研究者番号：70398725

(2) 研究分担者

なし()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし()

研究者番号：

(4) 研究協力者

なし()